

# Over Seas

## 留学への道 国際的相互理解の希望

### サイモン ダウンス

私は1992年に英会話を教える目的で来日しました。当時は日本の文化や言葉をまったく知らず、現在のように筑波大学の大学院生になり日本語で学ぶことになろうとは夢想だにしませんでした。英会話を教えた4年間で、日本の英語教育の問題はコミュニケーションとしての英語を重視せず、文法事項に焦点を置いた教育システムに多数課題があると感じました。そのため、私は「文部省に物申す」という題名で外国人による日本語弁論大会に参加しました。その中で、私は大学入試重視で文法的スキルの習得を強調した現在までの教育システムを見直し、コミュニケーションカティブアプローチへの転換を提言しました。

その後私は日本で教育の継続を望み、筑波大学の心理学系の教

室を訪ねました。牧野順四郎教授のご厚意で面会させていただき、日本における心理学の研究についていろいろとご教示いただきました。牧野教授によると、日本人の英語能力がなかなか向上しない理由の一つは、英語を学ぶ「目的」(Intention)が不十分だからだろう、とのことでした。先生ご自身の経験から、45歳時に研究のためオランダを訪問することになるまで、英語を話す必要性をまったく感じなかったとお話でした。

したがって、国際化を念頭におく今日の日本において、英語で話すことの重要性を認識し、学生は「英語で話そうという強い目的」をみつけることが重要でしょう。そして現在の指導教官の杉原一昭教授とお会いして、弁論大会のスピーチ中で概説した提案がイマー



Simon Downes

日本教育映像協会「留学生が先生！」国際文化教育プログラム講師。

イギリス出身。

1988年米国サンディエゴ州立大学卒業。93～97年日本で英会話教師。97年筑波大学大学院発達心理学系博士課程入学。専門は、発達心理学（児童生徒の英語獲得・イマージョン教育）。

ジョンプログラムの内容に非常に似ているとご指摘いただきました。イマージョン教育では、学校のカリキュラムの50%～100%が外国語を媒介として教授されます。このプログラムの目的は、加算的バイリンガリズム「additive bilingualism」であり、児童が母国語の発達の阻害を受けずに、第二言語を獲得することです。

私はこの研究に寄与できることを楽しみにしています。